

(仮) Team SUGE 地ケアプロジェクト キックオフ会 まとめ資料

① 団体の困っていることを共有しよう

* 「紹介シート」記載の内容とワールドカフェでの発言を統合しています

●職員や担い手が不足している

- ・職員不足。ボランティア1人で傾聴（花織たま北）
- ・人材不足。取組になかなかつながらない（南菅こども文化センター）
- ・専門職の人材不足（星の子愛児園）
- ・なり手の減少（菅第二地区民児協）
- ・マンパワーが不足している（菅の里）
- ・地域の方の力が必要（南菅こども文化センター）

●利用者が少ない

- ・中高生少ない（菅こ文）

●介護や学習支援などの支援をする人材が少ない

- ・サポートセンターの育児の援助を行いたい人が不足(ヘルパーさん)しています（星の子愛児園）
- ・介護の手が足りない（読売光と愛の事業団）
- ・子育てヘルパーの会員が減少している（川崎市ふれあい子育てサポート事業）（星の子愛児園）
- ・ボランティアで小中学生の学習支援してくださる方や、活動をより充実させるためにわくわくプラザ、こども文化センターで一緒に臨時職員として働いてくださる地域の方を探しています。（南菅こども文化センター）

●人材が確保できず次の世代につながらない

- ・新しい人が入ってこない（菅地区社協）
- ・今年改選→成り手不足、一期だけの人もいる、次にやってくれる人いない（第二民協）

●活動する上での場所がない

- ・駐車場がない

- ・地域活動として場の提供をしている（花織たま北）
- ・自宅近辺で集まる事のできる小規模な場や機会がない（よみうりランド花ハウス）
- ・農地の減少（農業技術センター）

●住民の健康意識を向上させられない

- ・健康づくりに関する住民の意識向上をどうしたらできるか（多摩区役所地域支援課・地区支援）

●施設が古い

- ・見学多いが施設が古く、追いついていない（農業技術センター）

●子育ての支援が足りていない

- ・子どもの居場所づくり（ままとんきっず）
- ・子育ての楽しさを伝えたい（星の子愛児園）
- ・地域で見守りが必要なご家庭への支援（多摩区役所地域支援課・地区支援）
- ・保護者の孤立（星の子愛児園）

●介護を必要としている人への支援が足りていない

- ・介護施設に入れない人をどうするかが課題（星の子愛児園）

●障がいのある人が社会で共生できるように当事者についてもっと知ってもらいたい

- ・共に生きる力をつけていきたい（はぐるま）
- ・当事者が外に出ていけるように（はぐるま）
- ・当事者を知ってもらいたい、理解してもらいたい（はぐるま）

●相談が集まりにくい、支援や取り組みについて知られていない

- ・相談件数が一人暮らしの方、古くから住んでいる方からも少ない（地区社協）
- ・オンライン子育て相談事業が、集まりにくい。ニーズの問題なのか、必要とされている方に届かないのか、模索中（菅保育園）

●相談が一過性のものになっている

- ・継続して相談してほしい（一過性にならないように）（星の子愛児園）

●高齢者の活動の場が少ない

- ・高齢者の方々が参加できる場や活動を増やしていきたいということ（菅の里）
- ・高齢の方の参加できるイベントが少なく、近隣地域向けイベントにとどまってしまう（菅の里）

●施設の資源をうまく活用できない

- ・花壇の活用（ヒューマンライフケア）
- ・施設回りの**花壇等の環境整備が難しいこと**（花織たま北）
- ・入りづらい雰囲気・孤立感がなんとなくある、是非来てほしい！（ヒューマンライフケア）
- ・認知の店カフェも以前やっていた→外で利用者さんがコーヒーを入れていたが人が来ない（ヒューマンライフケア）

●施設の資源をうまく使って交流を生み出せていない

- ・施設の周りを花壇で鮮やかにしたい（地域の方と交流）（菅保育園）
- ・新しい入居者も多いので、多世代交流がしたい（よみうりランド花ハウス）
- ・地域交流スペースの活用（無料、ハーモニカの練習、朗読）→カフェやイベントを企画したい（花織たま北）
- ・地域交流スペースの活用方法（花織たま北）

●外国籍の人とのコミュニケーションに不安がある

- ・外国籍の子が増えている、コミュニケーション（ままとんきっず）
- ・外国籍親子が増えてきているので、コミュニケーションが不安（ままとんきっず）

●地域との関わりが少ない

- ・利用者の方と散歩に行く時間がなかなか確保できず、**地域の方との接点を持ってないこと**（花織たま北）
- ・利用者と地域との交流が少ない（菅保育園）
- ・地域の方との関わり方、地区担当毎に工夫している（菅第一地区民児協）
- ・つながりの場を多く作っていききたい（はぐるま）

●地域に貢献したい、地域包括の拠点にしたい

- ・地域包括の拠点にしていきたい（南菅こども文化センター）
- ・地域貢献していかねば（読売光と愛の事業団）

●活動を知ってもらえない

- ・コロナ後の交流スペース、日曜カフェからはじめたけど広報が（花織たま北）
- ・月に1度、一部のいこいの家を利用されている方から気軽な生活相談を受けたり、居場所作りの場として「ふくし寄合処たま」を実施している。認知度が低いので広く知っていただきたいと考えており、何か広報等よい案があれば知りたい（多摩区社会福祉協議会）
- ・第5回川崎市地域福祉実態調査(令和元年度調査)多摩区版において、「地域包括ケアシステムを聞いたことがない」の割合が48.6%で最も高く、次いで「地域包括ケアシステムは、名称を聞いたことがあるが内容は知らない」の割合が21.3%で、両方で約70%となっています。そのため、認知度を上げていく取組を進めています（多摩区役所地域ケア推進課）
- ・関係機関へのヒアリングにて、認知症に対してネガティブな印象を持たれる方が多いこと

がわかり、認知症理解の普及啓発を進めていく上で効果的な方法を模索しています（多摩区役所地域支援課・地域サポート）

- ・認知度低い→何をしているかわからない（地区社協）
- ・民生委員への理解が低い(何をやっているの?)（菅第二地区民児協）

●イベントに参加してもらえない

- ・「ふくし寄合処たま」の集客方法、広報の仕方（多摩区社会福祉協議会）
- ・夏祭り、〇〇周年の記念祭などに地域の人を呼びたい→広報の仕方（どこに配布すれば良い）（ヒューマンライフケア）
- ・コロナ前のことだが、施設で開催した地域向けイベントに参加者が集まらなかった→どうしたら知ってもらい、地域の方が参加してもらえるか（ヒューマンライフケア）
- ・イベントを実施する際のアピール方法（ヒューマンライフケア）

●コロナで活動が制限されている

- ・カフェを開いていたがコロナで中止（読売光と愛の事業団）
- ・メインの行事ができていない（菅地区社協）
- ・コロナで活動できていない（菅の里）
- ・ふる星まつりなどに参加していたが、コロナで全く（はぐるま）
- ・コロナの影響により来館者が減っている（菅こども文化センター）

●コロナによる制限から活動が再開できない

- ・民生委員活動において、コロナ禍による2年半にわたる活動ブランクの修復（菅第一地区民児協）
- ・これまでのイベントの再開や大きな活動にどう広げていけば良いのかの手法が難しい、わからない（菅の里）

●コロナ以降の引き継ぎがうまくいかない

- ・コロナで施設まわりできないまま任期が終わる、なんでも言われてしまう。次に伝えられない（ブランクが空いてしまう）活動できていない（第一民生委員）

●コロナでふれあいが減っている

- ・コロナ禍で実際に接触した対応が難しい（菅第一地区民児協）
- ・積極的に会いにくい（菅第一地区民児協）
- ・コロナでふれあいの機会↓ 地域のことが見えにくい（ヒューマンライフケア）

●山と坂が多くて道が危ない、外出を妨げている

- ・曲がった見通しのきかない道路で運転が怖い（読売光と愛の事業団）
- ・山・坂が多く、外出を妨げている（よみうりランド花ハウス）

- ・場所（立地が悪い）住んでいる人には良いけど（読売光と愛の事業団）
- ・道が危ない（読売光と愛の事業団）
- ・地域差がある（菅馬場と菅仙谷）山と坂が多い（よみうりランド花ハウス）
- ・山、坂が多く、外出が難しい高齢者が多い（よみうりランド花ハウス）

●担い手の高齢化が進んでいる

- ・会員の高齢化（菅地区）
- ・会員の年齢が上がっている（菅地区社協）
- ・農業人口の高齢化（農業技術センター）
- ・高齢化→会長 25 年（地区社協）

●活動を継続していくために収益につなげたい

- ・工賃につなげたい（はぐるま）
- ・働く力はあるのですが、うまく活用できていない。ボランティア的活動も喜んで参加しますが、持続可能な活動にするには、わずかでもいいので収入につながるような形、という希望はあります（はぐるま）

●会費を集めることへの理解が得られない

- ・町会から 100 円←何のために集めるのかと言われる（地区社協）

●感染症対策への理解が得られない

- ・施設の運営においては、コロナにより各種制限をしているが、考え方の相違により感染対策事項に関してご理解いただけない点が出始めてきている感がある（川崎市多摩スポーツセンター）

その他コメント（キーワードのみ）

花織たま北

- ・スケッチの会やサークル活動

南菅こども文化センター

- ・認知症サポーター講座
- ・子ども自身が地域の一員

菅保育園

- ・北側園舎で食育、育たずできない
- ・出入口わけて物理的にできず

- ・広報

地区社協

- ・見守りの回数→本人の気持ち次第
- ・広報誌

菅の里

- ・活躍の場が不足している（菅の里）

③ 現地調査・視察・ツアーに行ってみたいところ

[テーマ別]

●農業・農園

- ・貸出農園
- ・波沼さんの農園：柿の木を年間1万円で提供している
- ・地元の野菜を作っている農家
- ・農業技術支援センター：卒園遠足で遊びに行く予定だったのが中止になったから
- ・農業技術センター
- ・南菅こども文化センターの農園：食育以前に生きることと命の大切さを伝えたいから
- ・農業技術支援センター：桜の季節に見に来てほしい
- ・フルーツパーク（現 農業技術支援センター）

●コミュニティカフェ

- ・三田まちもりカフェ：カフェの成功例を見たいから

●子ども

- ・子ども食堂
- ・子どもの寺小屋
- ・こども文化センター
- ・こども文化センター
- ・こども文化センター、いこいの家：子どもたちの元気な姿を見てもらいたいから
- ・54年の保育園（菅保育園？）

- ・小中学校、保育園
- ・保育園、こども文化センター
- ・**星の子愛児園**
- ・子どもの施設
- ・子育てサロン：日本語の話せない外国籍の住民が増えていて、どのように対応しているのかを見たいから

●高齢者施設

- ・**ヒューマンライフケアの施設**：地域の人に知ってほしい、広報のためにつながりをもらいたいから
- ・**菅の里、花ハウス**
- ・高齢者施設：新しい民生委員にはまず見てほしいから
- ・高齢者の施設

●地域交流の場

- ・地域交流センター：カフェや非常食の試食会をやりたいから
- ・包括の地域交流室：場を見たいから

●福祉施設

- ・はぐるまの新しい施設
- ・はぐるま共同作業所
- ・11月の福祉のつどい（11/26）：団体を紹介するタームがあるから
- ・光と愛の事業団

●防災関係

- ・消防団：活動している資源あるのに活用方法がわからないから
- ・合同防災訓練（河川敷）
- ・二ヶ領用水沿い：発電機が屋上にあり、防災機能も兼ねているため

●歴史的建造物

- ・**小沢城跡**：遊歩道がたくさんあるから
- ・神社仏閣：社協の中ではこども文化部で実施している

●活動

- ・公園体操：相談を受けたいから
- ・社協、民協の活動

●その他

- ・ 普段立ち入れない施設
- ・ 貸し部屋

[班別]

A 班

- ・ 三田まもりカフェ：カフェの成功例を見てみたいから
- ・ 公園体操：相談を受けたいから
- ・ 消防団：活動している資源あるのに活用方法がわからないから
- ・ フルーツパーク（現 農業技術支援センター）
- ・ 合同防災訓練（河川敷）
- ・ 貸出農園
- ・ ヒューマンライフケアの施設：地域の人に知ってほしい、広報のためにつながりをもらいたいから

B 班

- ・ 地域交流センター：カフェや非常食の試食会をやりたいから
- ・ ニヶ領用水沿い：発電機が屋上にあり、防災機能も兼ねているため
- ・ 社協、民協の活動
- ・ 波沼さんの農園：柿の木を年間1万円を提供している
- ・ 地元の野菜を作っている農家
- ・ 子ども食堂
- ・ 子どもの寺小屋
- ・ 54年の保育園
- ・ 農業技術支援センター：卒園遠足で遊びに行く予定だったのが中止になったから
- ・ はぐるまの新しい施設

C 班

- ・ 南菅こども文化センターの農園：食育以前に生きることと命の大切さを伝えたいから
- ・ 農業技術センター
- ・ こども文化センター
- ・ 星の子愛児園
- ・ 小沢城跡：遊歩道がたくさんあるから
- ・ はぐるま共同作業所
- ・ 神社仏閣：社協の中ではこども文化部で実施している
- ・ 普段立ち入れない施設

D 班

- ・子育てサロン：日本語の話せない外国籍の住民が増えていて、どのように対応しているのかを見たいから
- ・包括の地域交流室：場を見たいから
- ・高齢者施設：新しい民生委員にはまず見てほしいから
- ・菅の里、花ハウス
- ・11月の福祉のつどい（11/26）：団体を紹介するチームがあるから
- ・農業技術支援センター：桜の季節に見に来てほしい
- ・子どもの施設
- ・高齢者の施設

E 班

- ・こども文化センター、いこいの家：子どもたちの元気な姿を見てもらいたいから
- ・光と愛の事業団
- ・小中学校、保育園
- ・こども文化センター
- ・保育園、こども文化センター
- ・貸し部屋